

## 小学校 家庭科 部会

部会長 上野小学校 校長 渡邊 伴子

実践者 赤小学校 教諭 犬丸 千春

実践者 赤小学校 栄養教諭 鍋藤 君江

### 1 研究主題

豊かな家庭生活を築く実践力を育てる家庭科教育  
～実践的・体験的な学習活動の工夫を通して～

### 2 主題設定の理由

#### (1) 現代社会の動向から

「知識基盤社会」の時代であると言われていた21世紀は、グローバル化が一層進み、競争と技術改革が絶え間なく生まれ、幅広い知識と柔軟な思考力に基づく判断等がますます重要になると考えられている。したがって、「知識基盤社会」の時代を担う子どもたちは、変化の激しい社会において「生きる力」を身に付けることがますます重要であり、学校教育においては、「課題を見だし、解決するための思考力・判断力・表現力等」「生涯にわたって学ぶこと」「他者や社会、自然や環境と共に生きる」ことを育むことが一層求められている。

現在、家庭生活を取り巻く環境が変化し、複雑化する中で、持続的なライフスタイルをもち人間らしく生き生きと生きるためには、衣・食・住の営みや、金銭・時間の使い方や交際・余暇の方法にも工夫がいる。つまり、子ども自身の工夫次第で、おいしい食事や心地よい空間を準備することができるなど豊かな家庭生活を築いていくことが可能である。したがって、生涯にわたる家庭生活の基盤となる能力や態度を育成するためには、自分の生活に最も適切な生活の仕方を選択・実行し、豊かな家庭生活を築こうとする意欲や態度を育むことがますます重要となっている。

#### (2) 子どもの姿から

各種の調査から、我が国の子どもの課題として、知識・技能を活用する力が身に付いていない、睡眠時間の確保や食生活などの生活習慣の確立が不十分である、自分に自信がもてない、友だちとの人間関係づくりが不得手、体力が低下している等が指摘されている。これらの背景・原因として、次の二点が考えられる。一つ目は、社会全体や家庭・地域の変化である。これまでは、家庭や地域において自然に確保されてきた大人や異年齢の子どもとのかかわりや自然の中での体験活動が減少し、家庭や地域の教育力が低下していることである。二つ目は、学校教育の問題である。知識・技能を活用する学習活動、課題解決的な学習や探究活動が十分に行われてこなかったことである。

したがって、家庭科教育において、子どもの生活や学習の基盤としての食に関する指導、子どもが家族や身近な人々と様々なかかわりを持ちながら衣食住に関する基礎的な知識や技能を身に付ける指導、よりよい家庭生活を目指して問題解決学習に取り組む指導に取り組むことは、我が国の子どもの課題を解決に導く上でも、生きる力を育成する上でも重要である。

#### (3) 家庭科教育の目標から

家庭科は、生活の自立の基礎を培うことに重点を置き、衣食住などに関する基礎的・基本的な知識及び技能を身に付けるとともに、家庭生活を大切にしている心情を育むこと、家族の一員として生活をよりよくしようと工夫する能力と実践的な態度を育てることをねらいとしている。

学習指導要領には、そのねらいを達成するために、①空間的軸（自己と家庭、家庭と社会とのつながり）②時間的軸（生涯の見通しをもつ）③体系化（学校段階に応じた体系的な目標や内容）の3つの視点から学習指導を見直していくことと、①実践的・体験的な学習活動②問題

解決的な学習③言語活動の3つの学習活動の充実を図っていくことが明記されている。

このことは、生活との連続性をもった学びを重視したものであり、家族や近隣の人々など他者や社会、自然や環境とともに協働し、生涯にわたる家庭生活の基盤となる能力や態度を育むことを目指した指導の充実が求められているものである。

以上述べてきたように、自分らしい生活を送るために必要な生涯にわたる家庭生活の基盤となる能力や態度を育成するためには、自ら課題を見だし問題解決を図る問題解決的な学習指導の工夫をすること、家庭生活や小中の学びの連続性をもった指導を工夫することに焦点をあてることが重要であると考え、本研究主題「豊かな家庭生活を築く実践力を育てる家庭科教育」を設定した。

### 3 主題の意味

#### (1) 豊かな家庭生活とは

豊かな家庭生活とは、家族の一員として成長する自分がいたり、家族の一人一人が存在感を満たされ、人間的な成長と心の安定がもたらされたりする生活のことである。

子どもは、自分が家族の一員として、何ができるかを考えて行動し、家族や家庭生活への理解を深めていくことを通して、自分の成長や存在価値に気付くことができる。しかし、現代社会は技術革新の影響を受け、生活様式は多様化し、生活に物質的な豊かさと便利さをもたらし、物質的な豊かさ＝豊かな生活と捉える傾向が強くなってきている。

そこで、家庭科学習を通して、家庭生活への関心や家族の一員としての自覚を高め、家庭の仕事や分担したり家族とのコミュニケーションやふれあいの機会を増やしたりしながら家族とのかかわりを深め、子ども自身が、家庭生活の中での自分の存在や成長を実感しながら、日常生活に必要な基礎的な知識・技能と家族の一員として生活を工夫しようとする実践的な態度を身に付けることができるようにしなければならない。

#### (2) 豊かな家庭生活を築く実践力とは

豊かな家庭生活を築く実践力とは、家族の一員として豊かな生活への課題を解決するために、身につけた知識や生活技能を主体的に活用してよりよい生活を判断し、工夫していく実践的な態度のことである。

子どもが豊かな家庭生活を築くことができるようになるためには、自分と家族・家庭生活、家族・家庭生活と社会のつながりに着目することを通して、心身ともに健康な生活を営むための重要な役割を家庭生活が果たしていることや、よりよい生活を送るためには自分自身が能動的に取り組む必要があることを実感することが大切である。

また、実践的・体験的な学習活動を繰り返すことを通して、日常生活に必要な基礎的・基本的な知識・技能と実践的な態度を確実に身に付けることが必要である。そして、それらを活用した継続的な家庭実践や、自分や家族の生活の課題を解決する取組を通して、成長する自分を実感したり、家族や周りの人に喜んでもらえたという満足感、自分が家族のために役立つ存在であるという有用感、家庭生活をよりよいものに変容させることができたという達成感等を実感できるようにすることが肝要である。

#### (3) 目指す子ども像

【家庭生活への関心・意欲・態度】学習したことを家庭生活中で継続的に実践する子ども
【生活を創意工夫する能力】生活をよりよくしようと自分ができる工夫を考える子ども
【生活の技能】生活を豊かにする生活技能を身に付けた子ども
【家庭生活への知識・理解】家庭生活に必要な基礎的・基本的な知識を身に付けた子ども

## 副主題の意味するもの

「実践的・体験的な学習活動の工夫」とは、家庭生活を見直し、課題意識を持って、実習や観察、調査活動を通して追求するとともに、家庭生活に生かす基礎的・基本的な技能を身につけて、家庭で進んで実践できる実践的・体験的な学習活動を工夫することである。このような学習を繰り返すことにより、豊かな家庭生活を築こうとする態度や生活に必要な自立の基礎を培っていくことができると思う。

## 4 研究の目標

豊かな家庭生活を築く実践力を育てるための家庭科学習指導法を究明する。

## 5 研究の仮説

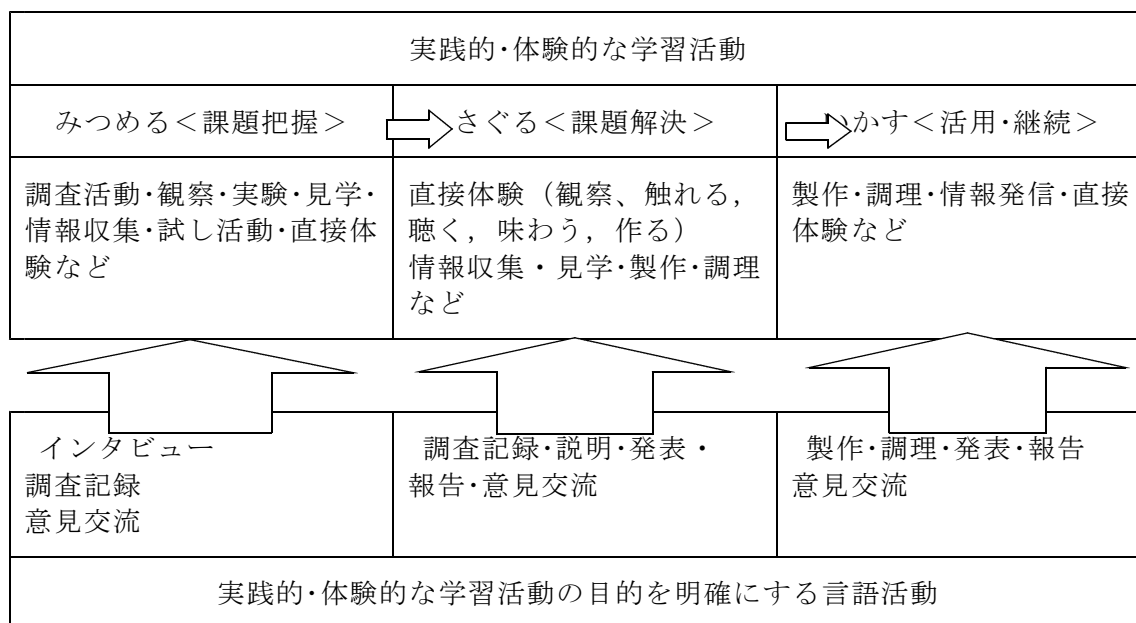
家庭科学習指導において、以下のような、実践的・体験的な学習活動の工夫を行えば、豊かな家庭生活を築く実践力を育てることができるであろう。

- (1) 実践的・体験的な学習活動の目的を明確にする言語活動の設定
- (2) 実践力を高める評価活動

## 6 研究の重点

### 着眼1 実践的・体験的な学習活動の目的を明確にする言語活動の設定

児童が生活に根ざした課題をもち、問題解決を通して知識・技能を習得するとともに、習得した知識・技能を活用し、身近な生活や家庭での実践を継続していく学習過程「みつめる」「さぐる」「いかす」の段階を設定する。その学習段階での実践的・体験的な学習活動において、自分の思いや考えを表現したり整理したりする言語活動を次の通り設定することにより、実践的・体験的な学習活動の目的を明確にすることができる。



### 着眼2 実践力を高める評価活動

自己評価・相互評価を取り入れることにより、自己を振り返ったり、友達の良さを知っ

たりしながら、基礎・基本を身につけ、よりよい実践の意欲を持つことができる。

また、家庭との連携を図り、家庭でも評価をしてもらうことで、家族の一員として実践することの喜びと大切さを感じ、継続的な実践意欲を持つことができる。

実践力を高める評価活動  
ワークシート 付箋を活用した評価 感想 感謝の手紙等

## 7 研究の実際

(1) 題材 第5学年 元気な毎日と食べ物

(2) 題材の目標及び計画

○毎日の食事に関心をもち、ご飯とみそ汁を中心とした伝統的な食事を大切にしようとしている。 **【家庭生活への関心・意欲・態度】**

○おいしいご飯とみそ汁の調理の仕方について考えたり、自分なりに工夫したりすることができる。 **【生活を創意工夫する能力】**

○ご飯とみそ汁の調理ができる。 **【生活の技能】**

○食品の栄養的な特徴や体に必要な栄養素の種類と働きについて知り、ご飯とみそ汁を中心とした伝統的な日常食の大切さについて理解している。

**【家庭生活についての知識・理解】**

指導計画（11時間）

○第一次 どんな食品を食べているか調べる・・・1時間

○第二次 五大栄養素の種類と主な働きを知る・・・1時間

○第三次 バランスのよい食事について考える・・・2時間（1／2本時）

○第四次 ご飯の炊き方、みそ汁の作り方を知る・・・7時間

（家での味噌汁作り）家族からの感想

配時	学習活動・内容	教師の支援・留意点	評価
みつめ	1 ①毎日の食事に関心をもち食品が働きによって3つのグループに分けられることを理解する。	○給食献立を提示し、どんな食品が使われているか調べさせ、給食の工夫や良さに気づかせる。	食品に含まれる栄養素が体の成長や活動のもとになることに興味を持っている <b>【関・意・態】</b> (調査表)
さぐ	1 ②五大栄養素の体内での主な働きと、3つの食品のグループに多く含まれている栄養素について学習する。	○3つ食品のグループと五大栄養素の関係を理解し食品に多くふくまれている栄養素で分類されていることを理解させる。	五大栄養素の種類と働きについて理解し、栄養を考えて食事をとることの大切さについて理解している。 <b>【知・理】</b>
	2 ③食品を組み合わせることにより、栄養のバランスがよい食事になることを理解する。 <b>(本時)</b>	○料理別に食品のグループ分けすることで、料理の特徴に気づかせる。特にみそ汁に注目させる。	食品をグループ分けすることを通して、食品の栄養的な特徴や食品の組み合わせに関心を持っている <b>【関・意・態】</b>

		④自分の食生活を振り返り、バランスのよい食事をとるために気をつけることを考える。	○事前に調査した1食をもとに、付加修正しながら栄養バランスのよい食事へ見直しができるようにする。	食品を組み合わせることにより、栄養バランスがよい食事になることを理解している。【知・理】(ワークシート)
いかす	1	⑤日本の伝統的食事ごはんのみそ汁について理解し、おいしいごはんのたき方がわかる。	○ごはんのみそ汁のよさについて自分の経験をもとに考え、交流させる。	米のみそについて栄養素や特徴がわかる。【知・理】
	1	⑥みその特徴や、みそ汁の作り方がわかる。家族に食べさせたいみそ汁を考える。	○家族のことを考えた味つけや実の工夫をやみそ汁作りができる。	みそしるは実の組み合わせを工夫している。【創・工】(ワークシート)
	2	⑦ご飯のみそ汁の調理計画を立てる。	○班で調理内容を決定し、調理手順やタイムテーブルを準備し、時間やポイントを確認させる。	調理実習に関心を持っている。【関・意・態】(計画表)
	2	⑨⑩調理実習をする。	○安全と衛生に注意し、課題を見つけさせる。	ごはんのみそ汁を作ることができる【技】
	1	⑪家庭での実践計画を立てる。 (家庭で味噌汁を作る)	○課題を改善し、家庭での実践に意欲を持たせる。	おいしいごはんやみそ汁の作り方を工夫している。【創・工】(手紙)

### (3) 本時

①日時 平成25年12月12日 第3校時 於第5学年1組教室(第3次1時)



#### ②主眼

- 食品をグループに分けることを通して、食品の栄養的な特徴や食品の組み合わせに関心を持つ。(関心・意欲・態度)
- 食品を組み合わせることにより、栄養バランスがよい食事になることを理解している。(知識・理解)

#### ③準備

- 教師・・・①食品群 ②献立表(食品名のみ) 給食献立の写真
- 児童・・・①ワークシート ②献立表(11月)

④展開

	学習内容・活動	形態	用具	教師の支援・留意点	評価
み つ め る	1. 前時までの学習をふり返る。	全	①	○5代栄養素と食品のグループ分けの関連を確認する。	
	2. 本時のめあてを確認する。				
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">                     バランスのよい食事について考えよう。                 </div>					
さ ぐ る	3. 3つの献立を提示し、食品を3つのグループに分ける。	個	②	【写真1】 ○料理ごとに書かせることで、4の内容で食品の組み合わせる必要性に気づかせる。 ○分からない食品については、教科書 P106 の食品分類表で調べさせる。 ○栄養素の働きを振り返り、栄養のバランスがよい食事の決まりに気づかせる。	食品をグループ分けすることを通して、食品の栄養的な特徴や食品の組み合わせに関心を持っているか。【関・意・態】 (ワークシート)
	献立①昨日食べた給食献立 ②今日食べる給食献立 ③先生の朝食 トースト、ハムエッグ、紅茶 (1) 各自で分ける。 (2) グループ分けが合っているか確かめる。				
20 分	4. グループ分けした表を見て、栄養のバランスについて話し合う。	班		○栄養素の働きを振り返り、栄養のバランスがよい食事の決まりに気づかせる。 【徹底事項】・3つのグループからかたよりなく食品が使われている。・主食、汁もの、おかずを組み合わせている。	
	ポイント ①バランスがよい食事はどれか。 ②バランスがよい理由は何か。 (1) 3つの献立のグループ分けを比べ気づいたことを班で交流する。 (2) 話し合った内容を発表し、バランスのよい食事の決まりに気づく。 (3) 栄養教諭の話聞いて、バランスのよい食事にするための方法を理解する。				
い か す	(4) 自分の食事を振り返り、改善方法を書く。 5. 本時の学習をまとめ、次時の内容を確認する。	全	①	食品を組み合わせることにより、栄養バランスがよい食事になることを理解しているか。【知・理】	